

序 文

本書は、県営住宅建替工事に先立ち、小郡市教育委員会が実施しました寺福童開遺跡2の発掘調査の記録です。

調査地は小郡市中央部、宝満川西岸の台地部分が舌状に張り出す低位段丘上に所在します。

周辺地ではこれまで数回にわたる発掘調査が実施され、弥生時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が確認されています。本調査でも住居・建物跡などの遺構を検出し、周辺遺跡との関連が注目されます。

本調査は、市内における古代集落の様相を明らかにする上で重要な成果です。本書が文化財への理解、さらには教育および学術研究の一助となれば幸いです。

最後に、調査にご理解・ご協力いただいた周辺住民の皆様、また地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げます。序文といたします。

平成31年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 清武 輝

例 言

1. 本書は、小郡市寺福童地内における県営住宅建替工事に伴って、小郡市教育委員会が平成 29 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 発掘調査は福岡県と協定を締結し、小郡市教育委員会が行った。
3. 遺構の写真撮影は一木賢人が行い、空中写真は（有）空中写真企画に委託した。
4. 遺構の実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、山川清日、永富加奈子、牛原真弓、林知恵ら諸氏に多大なる協力を得た。
5. 遺物の写真撮影は、（有）システム・レコに委託した。
6. 本書の遺構略号は、S C（住居）、S B（掘立柱建物）、S K（土坑）、S D（溝状遺構）、S P（ピット）を用いた。
7. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
8. 遺物・実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
9. 本書の執筆及び編集は一木が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	1
3. 調査組織	2
第2章 位置と環境	3
第3章 調査の概要	4
(1) A区	4
(2) B区	8
(3) C区	11
(4) D区	15
第4章 まとめ	23
出土遺物観察表	24
写真図版	

挿図目次

第1図 寺福童開遺跡2周辺の主要遺跡分布図(S=1/25,000)	3
第2図 A区遺構配置図(S=1/100)	5
第3図 A区1・2号土坑実測図(S=1/40)	7
第4図 A区1号溝土層実測図(S=1/40)	7
第5図 B区遺構配置図(S=1/200)	8
第6図 C区遺構配置図(S=1/150)	9
第7図 C-1区1・2・3住居跡実測図(S=1/40)	12
第8図 C-2区1号溝土層実測図(S=1/40)	13
第9図 C-1区出土土器実測図(S=1/4)	14
第10図 C-2区出土土器実測図(S=1/4)	14
第11図 D区1号溝土層実測図(S=1/40)	16
第12図 D区遺構配置図(S=1/200)	17
第13図 D区1・2号住居跡実測図(SC1:S=1/40, SC2:S=1/60)	19
第14図 D区1・2号掘立柱建物実測図(S=1/60)	20
第15図 D区1・2・3号土坑実測図(S=1/40)	21
第16図 D区出土土器・寺福童開遺跡2出土鉄器実測図(土器:S=1/4, 鉄器:S=1/2)	22

表 目 次

表 1 出土土器観察表..... 24

図 版 目 次

図版 1	①寺福童開遺跡2 調査区全景(上空から)	②寺福童開遺跡2 A区全景(西から)
	②寺福童開遺跡2 A区全景(南から)	
図版 2	①寺福童開遺跡2 B-1区全景(上空から)	②寺福童開遺跡2 B-2区全景(上空から)
図版 3	①寺福童開遺跡2 C-1区全景(北から)	②寺福童開遺跡2 C-2区全景(南から)
	③寺福童開遺跡2 C-2区全景(北から)	
図版 4	①寺福童開遺跡2 D-1区全景(上空から)	②寺福童開遺跡2 D-2区全景(上空から)
図版 5	①寺福童開遺跡2 D-3区全景(東から)	②寺福童開遺跡2 D-3区全景(西から)
図版 6	①A区 1号溝完掘(南東から)	②A区 1号溝土層断面(南から)
	③A区 2号溝完掘(東から)	④A区 2号土坑完掘(東から)
	⑤B-1区 東側ビット群(北西から)	⑥C-1区 1号住居貼床(北西から)
	⑦C-1区 1号住居 床面遺物(北西から)	⑧C-1区 1号住居 下層(北西から)
図版 7	①C-1区 1号住居土層断面(西から)	②C-1区 2号住居下層(南西から)
	③C-1区 2号住居下層(北東から)	④C-1区 2号住居 土層断面(西から)
	⑤C-1区 3号住居貼床(北西から)	⑥C-1区 3号住居下層(南東から)
	⑦C-1区 3号住居下層(北西から)	⑧C-1区 3号住居土層断面(西から)
図版 8	①C-2区 遺物出土状況(南東から)	②C-2区 1号溝完掘(西から)
	③D-1区 1号掘立柱建物(南西から)	④D-1区 2号掘立柱建物(南から)
	⑤D-1区 中央ビット群(南西から)	⑥D-1区 中央ビット群(南から)
	⑦D-1区 中央ビット群(南東から)	⑧D-1区 東側ビット群(南西から)
図版 9	①D-1区 1号住居土層断面(北から)	②D-1区 1号土坑完掘(北から)
	③D-1区 1号住居下層(北から)	④D-1区 1号溝土層断面(北から)
	⑤D-1区 1号住居下層(北から)	⑥D-1区 1号溝完掘(北から)
図版 10	①D-2区 1号土坑土層断面(南東から)	②D-2区 1号土坑完掘(北東から)
	③D-2区 2号住居貼床(南東から)	④D-2区 2号住居かまど(南東から)
	⑤D-2区 2号住居下層(南東から)	⑥D-2区 2号溝完掘(北から)

- 図版11 寺福童開遺跡2 出土遺物(1)
図版12 寺福童開遺跡2 出土遺物(2)
図版13 寺福童開遺跡2 出土遺物(3)
図版14 寺福童開遺跡2 出土遺物(4)
図版15 寺福童開遺跡2 出土遺物(5)



第1章 調査の経過と組織

1. 調査に至る経緯

小郡寺福童開道2の発掘調査に至る発端は、福岡県より提出された「福岡県公営住宅開団地建築工事」に伴う埋蔵文化財の有無の照会（平成28年8月5日 小教文第6057号）に始まる。これを受けて、小郡市教育委員会が申請地を対象に試掘調査を実施した結果、古代の遺跡の存在が確認された。この結果に基づき、平成29年10月27日付で埋蔵文化財発掘の通知が提出され、協議の結果、1400.77㎡について発掘調査を実施することで合意した。

小郡寺福童開道2は平成29年度に現地発掘調査、平成30年度に出土遺物整理作業、報告書作成を実施した。

2. 調査の経過

調査範囲は、県営住宅建替に伴う1400.77㎡である。現地調査は平成29年11月23日に着手し、平成30年3月2日に終了した。主な経過は以下の通りである。

平成29年11月20・21日：重機を搬入。D-1区の表土剥ぎを開始。

11月24日 午前雨天のため午後よりD-1区の調査開始

12月8日 C-2区の表土剥ぎ。

12月11日 A区の表土剥ぎ。

12月13日 B-1区の掘削・写真撮影

12月15日 B-2区の清掃と写真撮影。A区の掘削作業

12月21日 D区・B区の空撮、D区遺構の写真撮影

2018年1月5日 D-1区の埋め戻し・B-1区の図面作業

1月12日 D-2区の表土剥ぎ

1月15日 A区清掃・写真撮影

1月16日 A区図面・レベル入れ、

1月17日 A区埋め戻し、D-2区表土剥ぎ

1月29日 C-1区掘削・清掃

1月30日 C-1区の清掃・写真撮影・図面・レベル入れ

2月1日 D-2区図面作業

2月8日 D-2区清掃

2月9日 D-2区空撮

2月13日 D-2区埋め戻し

2月16日 D-2区埋め戻し&D-3区表土剥ぎ

2月26日 図面作業

3月2日 D-3区空撮・写真撮影・埋め戻し

3. 調査組織

寺福童間遺跡2における発掘調査に関係する組織は以下の通りである。

〈小郡市教育委員会〉		〈福岡県建築都市部県営住宅課〉	
教育長	清武 輝	建築都市部 部長	中尾良教
教育部 部長	山下博文	県営住宅課 課長	讃井人志
文化財課 課長	柏原孝俊	係長	小野朋朗（平成29年度） 中村琢磨（平成30年度）
係長	杉本岳史	技師	田中啓介（平成29年度） 田中正彦（平成30年度）
嘱託	一木賢人		

第2章 位置と環境

当遺跡の所在する寺福童は、小郡市中央部、宝満川西岸の台地部分が舌状に張り出す低位段丘に位置する。以下で当遺跡周辺の歴史を概観する。

当地区は古くから弥生時代の遺跡の存在が知られており、最も古い例では昭和2年に中山平次郎氏により「寺福童出土の甕棺」が紹介されている。地区内ではこれまで6回、南西に近接する福童地区区内で7回の発掘調査が実施され、弥生～江戸時代の遺構・遺物が確認されている。

市域における旧石器～縄文時代の遺跡の数は少なく、縄文時代の3例のみである。弥生時代になると集落の形成が活発になり、市域北部の三国丘陵と、甘木鉄道大板井駅～小郡駅を中心に広く展開する。前述の寺福童遺跡5地点(1)では、柳葉式磨製石鏃を伴う前期の木棺墓や、中期を主体とする甕棺墓群を検出している(小郡市教育委員会2006)。また寺福童遺跡4(2)では中広型の銅戈9口を伴う埋納遺構を検出し、弥生時代中期の所産と判明している。東に接する大崎区内でも、大崎中ノ前遺跡(3)等の集落が出現し、以後古墳時代にかけて寺福童区内の集落群と連動した様子が見られる。

古墳時代初頭には、福童町遺跡1(4)を皮切りに集落が営まれ、同時期の墓域として方形周溝墓4基が検出された寺福童遺跡1(5)が挙げられる。両遺跡から外来系の古式土師器が出土しており、小郡市域と畿内の関係が窺われる。古墳時代後期～末にかけては、刀子や耳環を伴う土壌墓と、若干時期を新しくする掘立柱建物が出検された寺福童内畑下道東遺跡(6)がある。

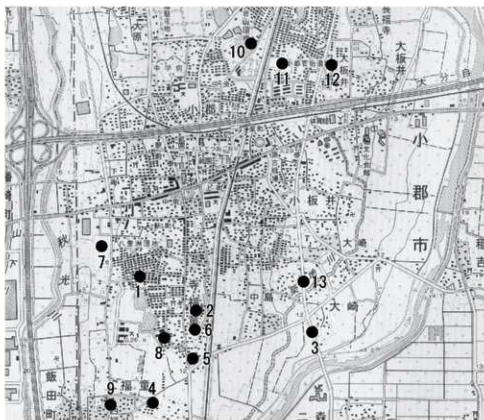
奈良時代には福童町遺跡2、寺福童遺跡2・3で若干の遺物が確認されるが、集落の様相や規模を覗わせるほどの資料は確認されていない。

奈良時代末から平安時代の遺跡はこれまで未確認だが、鎌倉時代には福童山の上遺跡(7)で掘立柱建物や溝、道路状遺構、土坑、井戸が検出され、龍泉窯系陶磁や白磁などが出土している。

近世の遺構は寺福童遺跡2(8)で集落域の区画と思われる溝が検出し、福童山の上遺跡でも同時期の溝が確認されている。また福童東内畑遺跡(9)では近世の井戸・土坑群・溝状遺構群を検出し、17世紀代の陶磁器がまとめて出土している。

一方、弥生時代中期以降の集落・墓域は、現在の市域中心部である洪積台地上で大規模に展

開しており、その代表例が小郡若山(10)・小郡官衙(11)・大板井(12)の諸遺跡を包括する「小郡・大板井遺跡群」である。小郡若山遺跡では中期前半の甕と多鈕細文鏡2面を伴う埋納遺構が確認されており、大板井遺跡では1935年甘木鉄道敷設の際に中期の中細形銅戈7口が出土したとの記録がある。小郡の大板井遺跡を弥生時代の北筑後地域の拠点集落とする説もあるが、同様に多数の青銅製祭器を持つ寺福童遺跡の位置づけが問題である。また同遺跡のような埋納遺構は、性格上多くが集落から隔絶された場所に見られるが、北九州市重留遺跡の堅穴住居での検出例などもあり、当時の生活の場と祭司的性格を持つ場との関係性は多様な姿を示す。寺福童から東の大崎地内では、大崎小園遺跡(13)、大崎中ノ前遺跡など弥生時代中期～後期の集落が分布しており、青銅器埋納遺構を有する寺福童遺跡との関連性が検討課題である。



第1図 寺福童開遺跡2周辺の主要遺跡分布図 (S = 1/25,000)

第3章 調査の概要

本遺跡は県営住宅の建替および外周道路の拡幅工事に伴い実施された発掘調査である。調査区は工事用車両やバリケードの関係から道路拡幅部分をA～C区に分け、建物部分をD区とした。

(1) A区

A区は調査地北側の外周道路拡幅部分にあたる。このうち東側は大きく削平を受けており、遺構は確認できなかった。西側では、土坑2基、溝2条が検出した。

1. 土坑

1号土坑（第3図、図版5）

北東側に位置する。平面プランは円形とみられるが、北側は調査区外へと広がる。調査区内では長軸1.55m、短軸0.99m、深さは遺構検出面から0.41mを測る。遺物は土師器が数点出土したが、いずれも小片のため図示していない。

2号土坑（第3図、図版5）

東側に位置する。平面は不整形プランで、長軸0.89m、短軸0.71m、深さは遺構検出面から0.20mを測る。遺物は土師器が数点出土したが、いずれも小片のため図示していない。

2. 溝

1号溝（第4図、図版5）

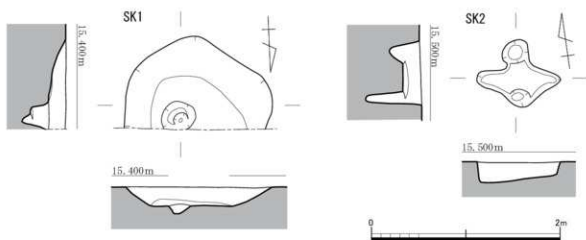
北側に位置する。南北に延びる溝とみられるが、調査区内で確認した範囲では全容を確認できなかった。検出部分では最大幅5.02m、長さ0.71m、深さは遺構検出面から0.45cmを確認した。遺物は近現代の遺物が多く、図示していない。

2号溝（第4図、図版5）

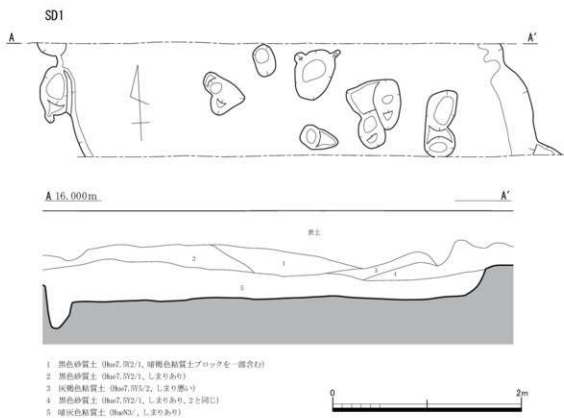
西側に位置する。東西に延びる溝で、検出部分では最大幅0.44m、長さ1.23m、深さは遺構検出面から0.42mを測る。遺物は土師器が僅かに出土したが、小片が多く図示していない。

3. その他

その他に多数のピットを確認した。土師器の小片が出土したものもあるが、いずれも小片のため図示していない。



第3図 A区土坑実測図 (S = 1/40)

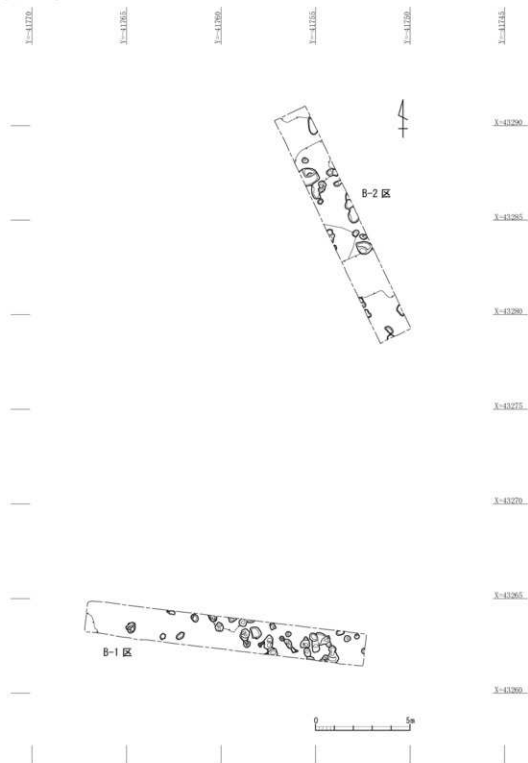


- 1 黒色砂質土 (ha7, 灰2/1, 暗褐色粘質土ブロックを一部含む)
- 2 黒色砂質土 (ha7, 灰2/1, しまりあり)
- 3 灰褐色粘質土 (ha7, 灰5/2, しまり無し)
- 4 黒色砂質土 (ha7, 灰2/1, しまりあり, 2と同じ)
- 5 暗灰色粘質土 (ha8KV, しまりあり)

第4図 A区1号溝土層実測図 (S = 1/40)

(1) B区

B区は調査地東側の外周道路拡幅部分にあたる。工事車両通路などの関係から便宜上南側の区画をB-1区、東側の区画をB-2区で区分した。B区ではほぼビッドのみの出土で、住居や土坑等の遺構は確認できなかった。掘立柱建物とみられるビッド列を検出したが、調査区内では特定できなかった。



第5図 B区遺構配置図 (S = 1/200)

(1) C区

C区は調査地西側の外周道路幅部分にあたり、D区を挟んで北側の区画をC-1区、南側の区画をC-2区とした。このうちC-2区の北側は既に削平を受けており、遺構は確認できなかった。C-1区では住居3軒が、C-2区では溝1条が検出した。

1. 住居

1号住居（第7図、図版6）

C-1区北側に位置する。調査区内では北西方向に広がる部分を検出し、残りは調査区外へと広がる。平面プランは方形とみられ、調査区内では長軸2.28m、短軸1.30m、深さは遺構検出面から0.35mを測る。主柱穴は4本とみられるが、調査区内では確認できなかった。また遺構内から貼床は確認できず、住居以外の遺構の可能性もある。遺物は土師器が出土している。

出土遺物（第9図、図版12・13・14）

1は土師器の甕。内面にヘラケズリの痕跡を残す。2・3は須恵器の灯蓋。4は須恵器の提瓶の口縁部片。5は土師器の高坏の脚部。外面にヘラケズリを施す。

2号住居（第7図、図版6）

C-1区中央に位置する。調査区内では一辺0.8～1.36m、深さは遺構検出面から0.21mを測る。平面プランは方形とみられるが、検出部分ではやや重なる形を呈しているため、主軸の方向は不明である。遺物は土師器が数点出土したが、いずれも小片のため図示していない。

3号住居（第7図、図版6）

C-1区南側に位置する。調査区内では北側の一部を検出し、ほとんどは調査区外へと広がる。平面プランは方形とみられ、調査区内では東西1.22m、南北3.52m、深さは遺構検出面から0.48mを測る。主柱穴は4本と見られるが、調査区内では確認できなかった。北壁付近で焼土を確認している。遺物は須恵器、土師器が出土している。

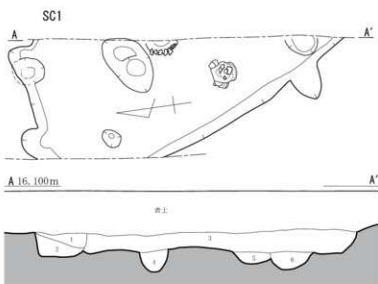
出土遺物（第9・16図、図版11・13）

第9図の6は土師器の甕。摩滅により調整の痕跡がやや不明瞭だが、外面のハケメ、内面のヘラケズリの痕跡が僅かに残る。7は須恵器の坏身。第16図の19は刀子で、長さ5.5cm、幅1.0cm、厚さ0.4cmを測る。

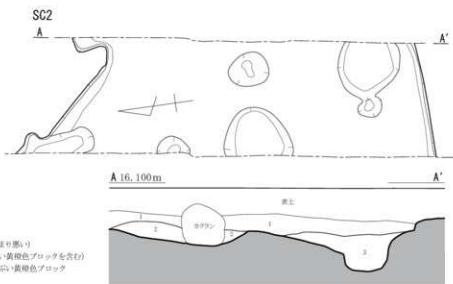
2. 溝

1号溝（第8図、図版7）

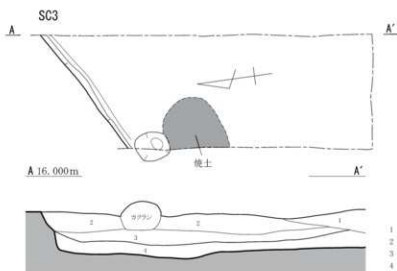
C-2区南側に位置する。東西にやや湾曲しながら延びる溝とみられ、調査区内では最大幅2.22m、長さ2.98m、深さは遺構検出面から0.55mを確認した。遺物は須恵器、土師器が多く出土している。



- 1 灰色粘質土 (Iha7.514/1, よくしまる)
- 2 にごい・黄褐色粘質土 (Iha0106/3, 灰色粘質土を一部含む)
- 3 黄褐色砂質土 (Iha2.514/1, しまり悪し)
- 4 灰色粘質土 (Iha7.514/1, よくしまる, 1と同じ)
- 5 にごい・黄褐色粘質土 (Iha0106/3, 灰色粘質土を一部含む, 2と同じ)
- 6 灰色粘質土 (Iha7.514/1, よくしまる, 1と同じ)



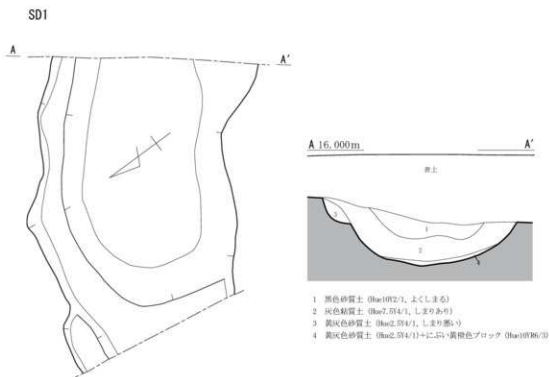
- 1 黄褐色砂質土 (Iha2.514/1, しまり悪し)
- 2 灰色粘質土 (Iha2.514/1, にごい・黄褐色ブロックを含む)
- 3 灰色粘質土 (Iha2.514/1) + にごい・黄褐色ブロック (Iha0106/3)



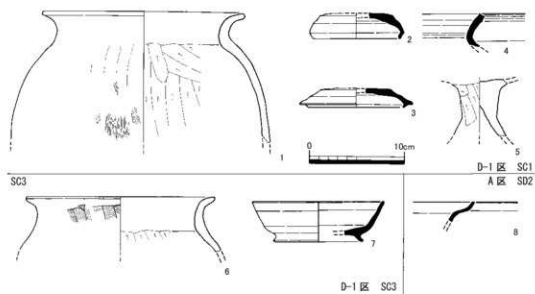
- 1 黄褐色砂質土 (Iha2.514/1, しまり悪し)
- 2 灰色粘質土 (Iha7.514/1, よくしまる)
- 3 灰色粘質土 (Iha7.514/1, 明黄褐色ブロックを含む)
- 4 灰オリーブ砂質土 (Iha015/2, 明黄褐色粘土 (Iha2.517/6) を含む)

0 2m

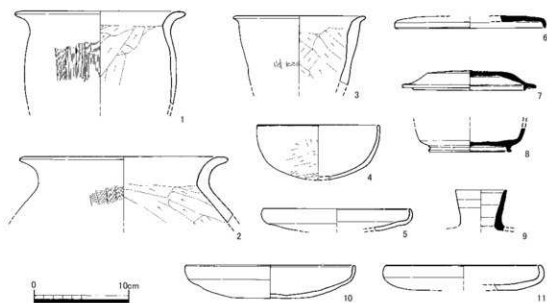
第7図 C-1区1・2・3住居実測図 (S = 1/40)



第8図 C-2区1号溝土層実測図 (S = 1/40)



第9図 A区、C-1区出土土器実測図 (S = 1/4)



第10図 C-2区出土土器実測図 (S=1/4)

出土遺物 (第10・16図、図版11・12・13・14)

第10図の1～5、10・11は土師器。1～3は甕で、いずれも外面にハケメ、外面にヘラケズリの痕跡を残す。4は碗で、外面に手持ちヘラケズリ、内面に一部ヘラミガキとみられる調整痕がみられるが、どちらも摩滅のため不鮮明である。5・10・11は坏。6～9は須恵器。6・7は坏蓋で、7はかえり部がつく。8は坏身で、底部に高台がつく。9は提瓶の口縁部の破片。第16図の20・21は鉄鍔。20は長さ10cm、幅0.6cm、厚さ0.6cmを測る。21は鍔身部の一部を残すが形状は不明である。長さ8.4cm、幅1.5cm、厚さは茎部0.6cm、鍔身部0.35cmを測る。

(1) D区

D区は調査地南側にあたり、西側の区画をD-1区、東側の区画をD-2区、南側の区画をD-3区とした。D-1区では住居1軒、掘立柱建物3棟、土坑1基、溝1条、D-2区では住居1軒、土坑1基、溝1条、D-3区では土坑1基、溝1条を検出した。

1. 住居

1号住居 (第13図、図版9)

D-1区東側に位置する。平面プランは方形とみられ、調査区内で一辺0.8～1.36m、深さは遺構検出面から0.21mを測る。主柱穴は4本と見られるが、調査区内では確認できなかった。遺物は須恵器の小片が出土している。

出土遺物 (第16図)

18は須恵器の坏身。内外面に回転ナデの痕跡を残す。

2号住居 (第13図、図版10)

D-2区西側に位置する。平面プランは方形で、長軸3.72m、短軸3.56m、深さは遺構検出面から0.16mを測る。主柱穴は4本を確認した。北西にはカマドが敷設される。遺物は須恵器、土師器が出土している。

出土遺物 (第16図、図版11・12・13・14・15)

1～6は土師器。1・2は甕で、2は内面ヘラケズリ、外面にハケメの痕跡がみられる。3は碗、4は坏で、いずれも外面に手持ちヘラケズリの痕跡がみられる。5は坏身とみられるが、周辺では類例のない器形のため検討が必要か。6は外面底部にヘラ記号を残す坏身。7～11はいずれも須恵器。7・10は坏身、8・9は坏蓋である。11は甕で、外面に回転ナデ後に手持ちヘラケズリを施している。22は茎部断面方形の鉄鏝で、長さ12.3cm、幅0.3cm、厚さ0.3cmを測る。

2. 掘立柱建物

1号掘立柱建物 (第14図、図版8)

D-1区西側に位置する東西棟の掘立柱建物である。主軸をN-57°-Eにとる。2×1間の建物で、規模は桁行2.92m×梁行2.06～2.52m、桁間1.40～1.54m、梁間2.06～2.52mを測る。柱掘り方は円形～不整形円形を呈し、径0.62～0.66m程、深さ0.43～0.55mを測る。遺物は出土しなかった。

2号掘立柱建物 (第14図、図版8)

D-1区中央に位置する東西棟の掘立柱建物である。主軸をN-87°-Eにとる。2×1間の建物で、規模は桁行2.92m×梁行2.06～2.52m、桁間1.40～1.54m、梁間2.06～2.52mを測る。柱掘り方は円形～不整形円形を呈し、径0.62～0.66m程、深さ0.43～0.55mを測る。遺物は出土しなかった。

3. 土坑

1号土坑 (第15図、図版9)

D-1区東側に位置する。平面プランは円形で、東半のほとんどを1号溝に切られる。長軸2.04m、短軸1.78m、深さは遺構検出面から0.18mを測る。遺物は土師器が数点出土したが、いずれも小片のため図示していない。

2号土坑 (第15図、図版10)

D-2区東側、2号住居の北側に位置する。平面プランは楕円形で、長軸2.41m、短軸1.94m、深さは0.54mを測る。遺物は須恵器、土師器が大量に出土しており、廃棄土坑とみられる。

出土遺物 (第16図、図版11・12・15)

12～16は土師器。12・13は甕で、12は内面にコゲ、外面にススを確認した。14・16は坏身で、14は底部外面にヘラ記号を残す。15は椀だが、器表は摩滅のため調整不明。17は坏蓋。23は鉄鏝で、長さ5.9cm、幅0.7cm、厚さ0.45cmを測る。

3号土坑 (第16図、図版5)

D-3区北西側に位置する。平面は楕円形とみられ、北半分は調査区外へと広がる。長軸0.87m、短軸0.50m、深さは遺構検出面より0.22mを測る。遺物は出土していない。

4. 溝

1号溝 (第11図、図版9)

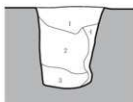
D-1区からD-3区にかけて南北に延びる溝である。調査区内では最大幅0.45m、長さ12.30m、深さは遺構検出面から0.83mを確認した。遺物は出土していない。

2号溝 (第12図、図版10)

D-2区東側に位置する。南北に延びる溝とみられ、調査区内では最大幅0.85m、長さ11.1m、深さは遺構検出面から0.75mを確認した。遺物は須恵器の破片が出土したが、小片のため図示していない。

SD1

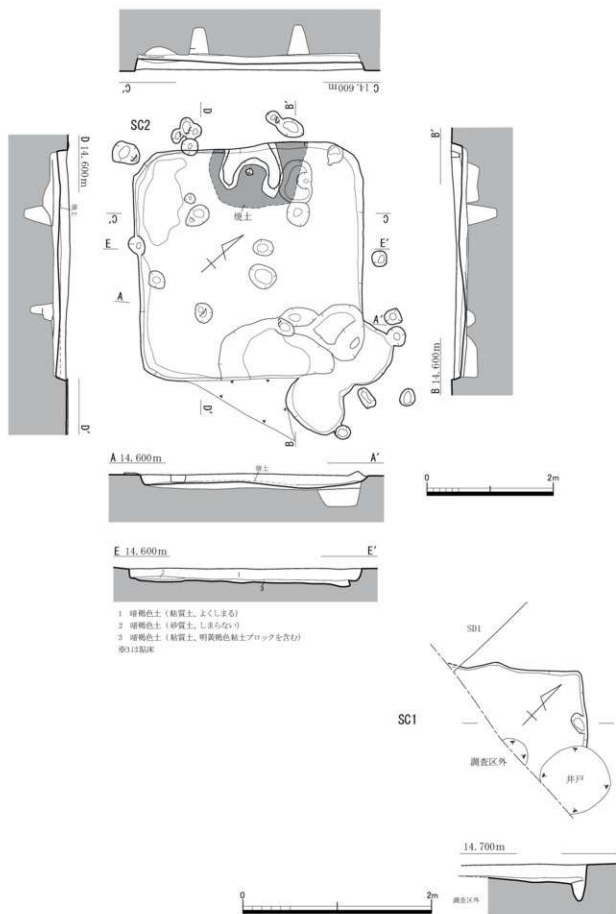
14.900m



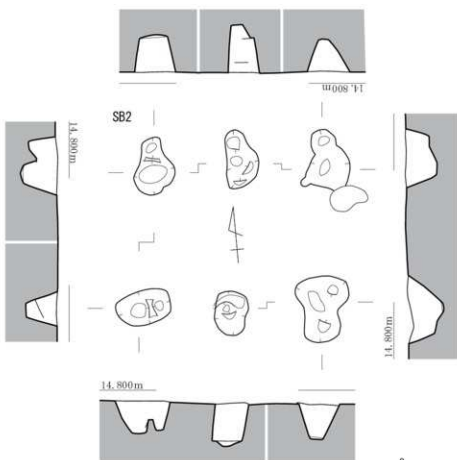
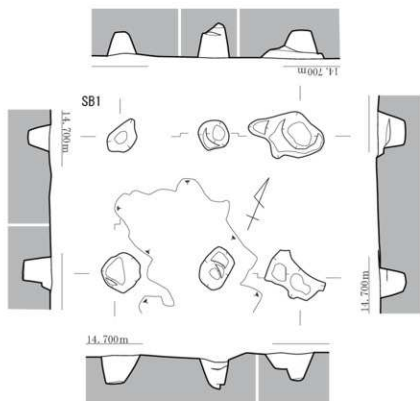
- 1 暗褐色粘土・黒色砂質土 (しまり跡有り)
 - 2 黒色砂質土 (しまり跡有り)
 - 3 黒色粘質土 (しまり跡有り)
 - 4 黒色粘質土・明黄褐色砂質土 (しまり跡有り)
- ※1はカクラン、2は廃棄後堆積、4は地盤・堆積物混じり



第11図 D区1号溝土層実測図 (S=1/40)

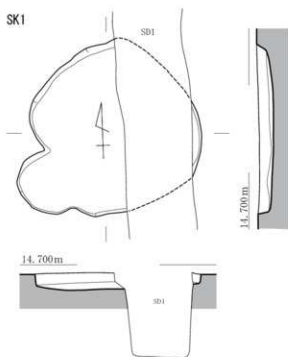


第13図 D区1・2号住居実測図 (SC1 : S=1/40, SC2 : S=1/60)

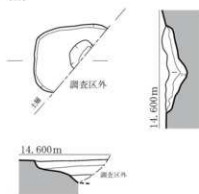


第 14 图 D 区 1·2 号掘立柱建物实测图 (S=1/60)

SK1

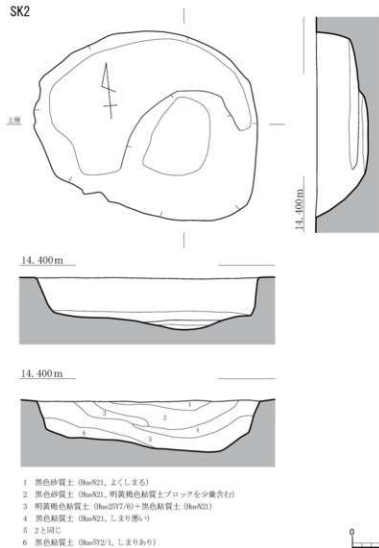


SK3

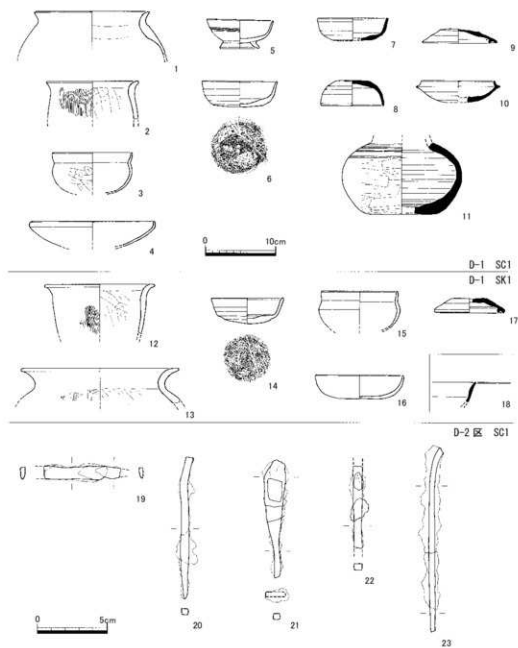


- 1 黒褐色粘質土 (IhaC7, S183/1) + オリーブ褐色粘質土ブロック (IhaC2, S14/4) 一部含む
 2 黒褐色粘質土 (IhaC7, S182/1) + 黄褐色粘質土ブロック (IhaC10/S5/6) 一部含む

SK2



第15図 D区1・2・3号土坑実測図 (S=1/40)



第 16 图 D 区出土土器·寺福童道跡 2 出土鉄器実測図 (土器:S1/4、鉄器:S=1/4)

第4章 まとめ

本調査では、住居跡5軒、掘立柱建物2軒、溝5条、土壇5基を確認した。このうち、住居と溝からは須恵器、土師器が出土している。周辺の調査では寺福童遺跡4から同様の土器が出土しており、六世紀おわりから八世紀ごろが本遺跡の中心的な時期にあたると思われる。

また本調査区域に隣接する寺福童開遺跡1の調査でも同時期の住居、掘立柱建物、廃棄土坑などの遺構を確認しており、周辺ではある程度まとまった集団が生活を営んでいたと考えられる。これまで寺福童周辺の調査では、古墳時代の集落とみられる遺跡が確認されるのに対し、奈良時代から平安時代にかけての遺跡は、僅かな遺物を除きほとんどみられなかった。今回の調査と寺福童開遺跡2の調査で確認された遺構・遺物は二つの時期の過渡期にあたる時期のものとみられ、古墳～古代にかけての集落の消長を考えるうえで貴重な成果であると考えられる。また本遺跡および寺福童開遺跡1の検出状況から同時期の生活域は更に広がるとみられ、今後の調査での更なる成果と発見を期待したい。



①寺福童間遺跡2 調査区全景（上空から）



②寺福童間遺跡2 A区全景（西から）

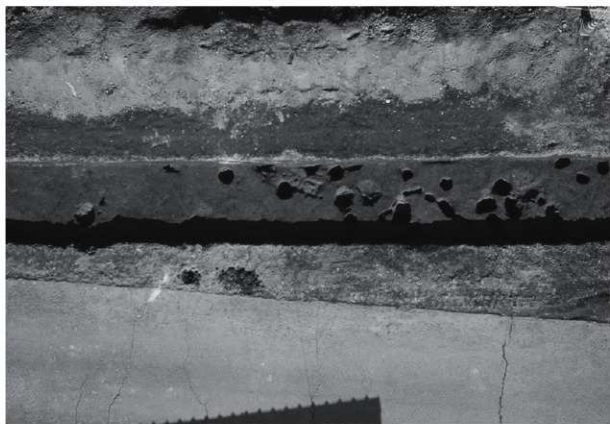


③寺福童間遺跡2 A区全景（南から）

図版 2



①寺福童間遺跡 2 B-1区全景（上空から）



②寺福童間遺跡 2 B-2区全景（上空から）



①寺福童開遺跡2 C-1区全景 (北から)



①寺福童開遺跡2 C-1区全景 (南から)



②寺福童開遺跡2 C-2区全景 (東から)

図版 4



①寺福童開遺跡2 D-1区全景（上空から）



②寺福童開遺跡1 D-2区全景（上空から）



①寺福童開遺跡2 D-3区全景 (東から)



①寺福童開遺跡2 D-3区 全景 (西から)

図版 6



① A区1号溝完掘 (南東から)



② A区1号溝土層断面 (南から)



③ A区2号溝完掘 (東から)



④ A区2号土坑完掘 (東から)



⑤ B-1区 東側ピット群 (北西から)



⑥ C-1区1号住居貼床 (北西から)



⑦ C-1区1号住居 床面遺物 (北西から)



⑧ C-1区1号住居 下層 (北西から)



① C-1区1号住居土層断面 (西から)



② C-1区2号住居下層 (南西から)



③ C-1区2号住居下層 (北東から)



④ C-1区2号住居土層断面 (西から)



⑤ C-1区3号住居貼床 (北西から)



⑥ C-1区3号住居下層 (南東から)



⑦ C-1区3号住居下層 (北西から)

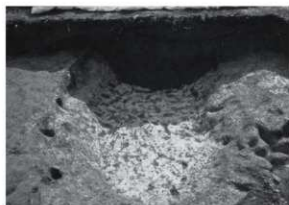


⑧ C-1区3号住居土層断面 (西から)

図版 8



① C-2区 遺物出土状況 (南東から)



② C-2区 1号溝完掘 (西から)



③ D-1区 1号掘立柱建物 (南西から)



④ D-1区 2号掘立柱建物 (南から)



⑤ D-1区 中央ピット群 (南西から)



⑥ D-1区 中央ピット群 (南から)



⑦ D-1区 中央ピット群 (南東から)



⑧ D-1区 東側ピット群 (南西から)



① D-1区1号住居土層断面（北から）



② D-1区1号土坑完掘（北から）



③ D-1区1号住居下層（北から）



④ D-1区1号溝土層断面（北から）



⑤ D-1区1号住居下層（北から）

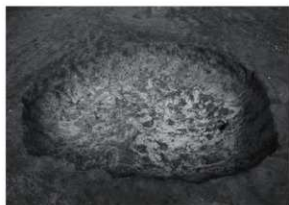


⑥ D-1区1号溝完掘（北から）

図版 10



① D-2区1号土坑土層断面 (南東から)



② D-2区1号土坑完掘 (北東から)



③ D-2区2号住居貼床 (南東から)



④ D-2区2号住居かまど (南東から)



⑤ D-2区2号住居下層 (南東から)



⑥ D-2区2号溝完掘 (北から)



第 9 图 - 1

①



第 10 图 - 1

②



第 10 图 - 2

③



第 16 图 - 13

④



第 9 图 - 6

⑤



第 16 图 - 1

⑥



第 10 图 - 3

⑦



第 16 图 - 2

⑧

图版 12



第 16 图 - 3

①



②



第 10 图 - 4

③



第 16 图 - 16

④



第 9 图 - 5

⑤



第 16 图 - 5

⑥



第 10 图 - 11

⑦



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

图版 14



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



第 16 图 - 14

③



第 16 图 - 6

②



第 16 图 - 17

第 16 图 - 12

第 16 图 - 15

③ D-2 区 2 号土坑出土土器



報告書抄録

ふりがな	てらふくどうひらきいせき2							
書名	寺福童開遺跡2							
副書名	福岡県寺福童所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第327集							
編著者名	一木賢人							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 TEL0942-72-2111							
発行年月日	平成31(2019)年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
てらふくどうひらきいせき 寺福童開遺跡2	福岡県 小郡市 てらふくどう 寺福童	40216		33° 39' 60"	130° 55' 81"	2017.11.20 ～ 2018.3.2	1400.77㎡	県営住宅建替
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
寺福童開遺跡2		古代	住居 掘立柱建物 溝 土坑		土師器 須恵器			
要約	<p>本調査では、住居跡5軒、掘立柱建物2軒、溝4条、土壇3基を確認した。このうち、住居と溝からは須恵器、土師器が出土し、飛鳥時代、特に六世紀おわりから7世紀はじめ頃が本遺跡の中心的な時期にあたると考えられる。</p> <p>今回の調査で確認された遺構・遺物は古墳時代から奈良・平安時代の過渡期にあたる時期のものとみられ、古墳～古代にかけての集落の消長を考えるうえで貴重な成果であると考えられる。</p>							

寺福童開遺跡 2

－福岡県小郡市寺福童所在遺跡の調査報告－
小郡市文化財調査報告第327集

平成31年3月31日

発行 小郡市教育委員会
小郡市小郡 255-1

印刷 片山印刷有限公司
福岡県小郡市祇園1丁目 8-15